

役員所感

副理事長 平林 健恒

2011年の大震災以降明るい話題が少なかった日本ですが、東京オリンピックの招致が成功し小さな希望が見えてきました。ただ、原発問題などの諸問題は依然として鬱積しており、まさに混沌の時代と言えるのではないのでしょうか。綱領にある「混沌という未知の可能性」というフレーズを今こそ再認識し、諸問題に対して正面から果敢にぶつかり、解決を模索することが、今後の地域を担う若者が集う青年会議所が行なうべき使命です。

我々上越JCは、その歩みの中で培われた精神と運動を糧に本年50周年の大きな節目を迎えることとなりました。継続は力なりの言葉の如く、50年前に偉大なる先達の力によって立ち上げられたこの組織がここまで継続してきた影には、多くの先輩諸兄のたゆまない努力が存在したと感じております。不連続の連続による活動の繋がりが、組織をこの地域になくしてはならない存在として確立したとも考えます。しかし、経済状況などの影響もあり、組織の成長が鈍化しているのもまた事実です。会員拡大と在籍年数の短年化は課題となっており、メンバーのJCに対するプライオリティの低下も叫ばれる中、組織としてどのような成長戦略をとるかが大きな問題です。これら内包する問題を改善する為には、メンバーがJC運動を行いやすい環境を作ることが重要です。事務方の副理事長という役職を頂くに当たり、節目の年を成功に導くために、運営と管理という立場から環境の構築を行い、LOMの下支えを担います。そして、この組織が今後の50年を公益団体として継続していくべく、更なる進化の一助となる働きができればと意を決する所存です。

地域に求められるニーズを的確にとらえ、信頼と負託に応えていく組織として強化を図り、誰もが参加できる開かれた活動を展開し、市民目線に立った運動を繋げることで、サステイナブルな組織として更なる50年に向けた基礎を構築するように活動に邁進します。